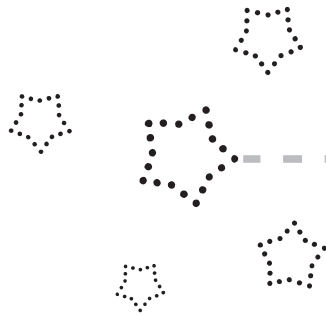


第1部 全体の調査結果

第5章

幼稚園・保育園と保護者のかかわり

後藤 憲子
田村 徳子



第1節

幼稚園・保育園の選び方と過ごす時間

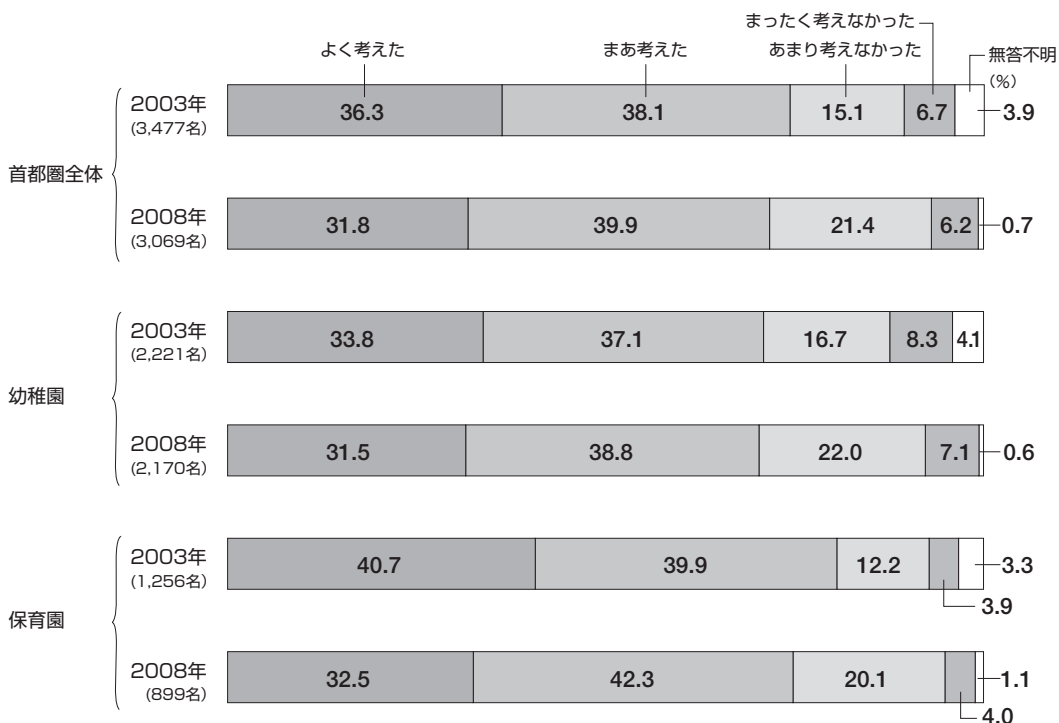
幼稚園・保育園選びで重視したことをたずねたところ、5年前に比べ「しつげがしっかりしている」「保育内容・教育内容がよい」「見学のときの印象がよい」「園長や先生が信頼できる」という回答が増加した。また、園で過ごす時間は、首都圏と地方市部・地方郡部では異なる結果となった。

● 園選びを考えた母親は首都圏全体で71.7%。03年調査より若干減少

「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」とたずねたところ、首都圏全体で「よく考えた」31.8%、「まあ考えた」39.9%、「あまり考えなかつ

た」21.4%、「まったく考えなかつた」6.2%だった。03年調査と比較すると、「よく考えた」が4.5ポイント減り、「あまり考えなかつた」が6.3ポイント増えており、首都圏全体として園選びへの熟考度が若干減っていることがわかった（図1-5-1）。

図1-5-1 幼稚園・保育園選択（経年比較 首都圏全体・就園状況別）



● 保育園児の母親のほうが熟考

就園状況別に比較してみると、保育園児の母親のほうが、幼稚園児の母親より通う園をよく考えており、これは03年調査と変わらない傾向だった。幼稚園・保育園それぞれでの傾向はどうだろうか。03年調査と比較してみると、幼稚園児の母親は傾向が変わらなかった。一方、保育園児の母親は「よく考えた」が8.2ポイント減り、「あまり考えなかった」が7.9ポイント増えていた。保育園児の母親のほうが、幼稚園児の母親より考えているが、5年前に比べて熟考度が減っているといえよう(図1-5-1)。

● 幼稚園選択では、しつけや教育内容、先生が信頼できることを重視

「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときにどのようなことを重視しましたか」について、23項目から複数回答でたずねた。03年調査と比較すると、全般的に重視する数値が高く、園への期待が高まる様子が見えてきた。

幼稚園では(図1-5-2)、①「家から近い」62.2%、②「雰囲気が良い」61.4%、③「たくさん遊ばせてくれる」48.8%、④「園児が明るい」44.5%、⑤「保育内容・教育内容が良い」40.2%、⑥「園長や先生が信頼できる」40.1%が上位にあげられた。03年調査と上位にあがる項目はほぼ同じだった。

03年調査と比較して増えたのは、「しつけがしっかりしている」9.7ポイント増、「給食がある」7.4ポイント増、「保育内容・教育内容が良い」6.9ポイント増、「見学のときの印象が良い」6.6ポイント増、「園長や先生が信

頼できる」5.8ポイント増だった。一方、減ったのは「子どもの友だちと一緒に通う」6.8ポイント減、「わが家の教育方針にあう」5.1ポイント減だった。

幼稚園児の母親は、子どもの友だちと一緒に通うといった理由よりも、園でのしつけや教育内容を吟味して、園を選ぶ傾向が強くなっている。

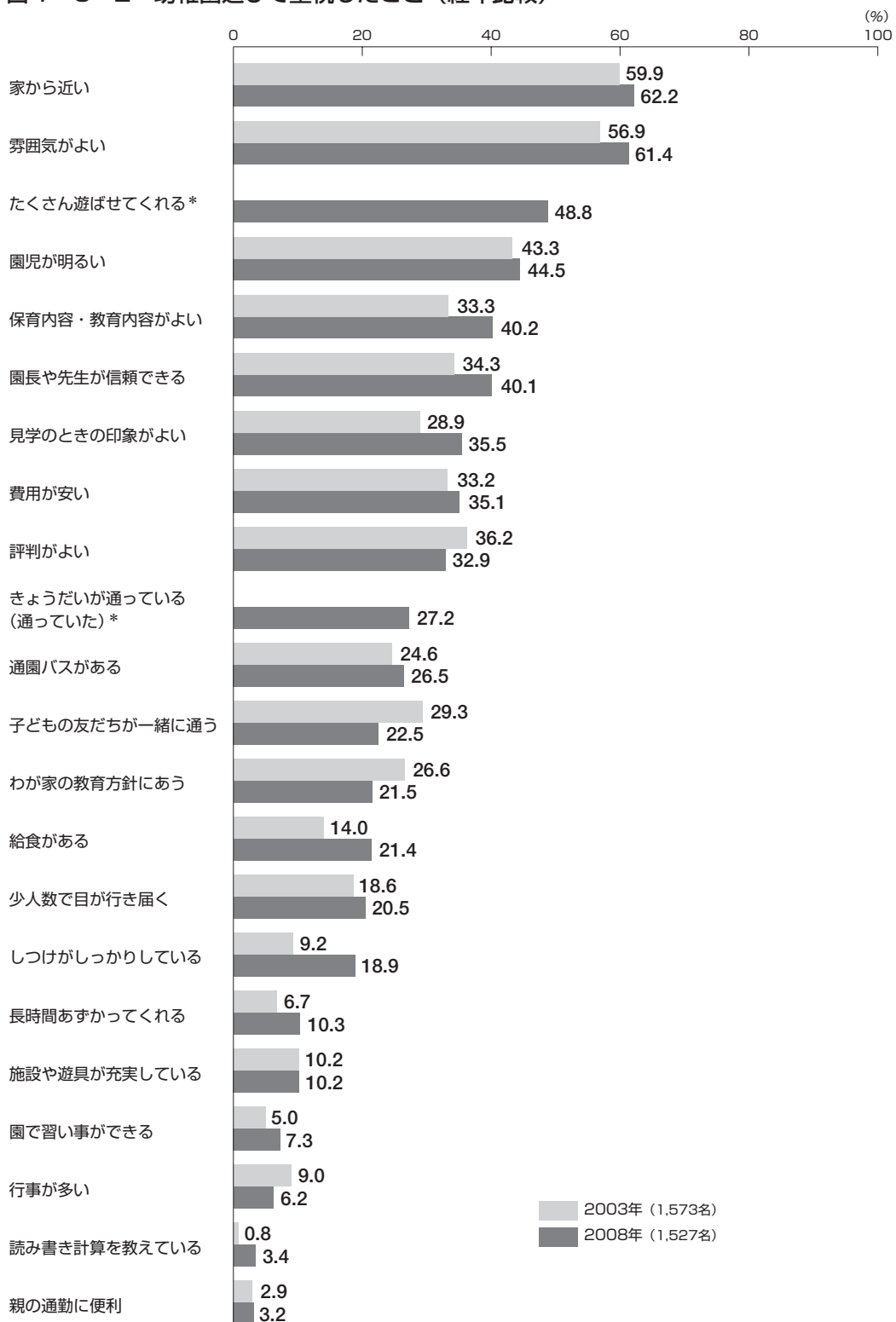
● 保育園選択では、給食、親の通勤に便利、長時間保育に加え、しつけや教育内容を重視

保育園では(図1-5-3)、①「家から近い」72.0%、②「雰囲気がよい」46.3%、③「給食がある」45.8%、④「親の通勤に便利」37.8%、⑤「長時間あずかってくれる」37.6%、⑥「保育内容・教育内容が良い」33.9%が上位にあげられた。保育園でも03年調査と上位にあがる項目はほぼ同じだった。

03年調査と比較して増えたのは、「保育内容・教育内容が良い」10.4ポイント増、「しつけがしっかりしている」7.1ポイント増、「給食がある」6.2ポイント増、「見学のときの印象が良い」6.1ポイント増、「通園バスがある」5.1ポイント増だった。一方、減ったのは「親の通勤に便利」6.6ポイント減、「長時間あずかってくれる」6.3ポイント減、「評判が良い」5.5ポイント減だった。

保育園児の母親は、通園バスや給食など子どもをあずける母親への補助に加え、幼稚園と同様に、保育園でのしつけや教育内容、見学時の印象を重視するよう変化してきている様子が見えてきた。

図 1-5-2 幼稚園選びで重視したこと（経年比較）

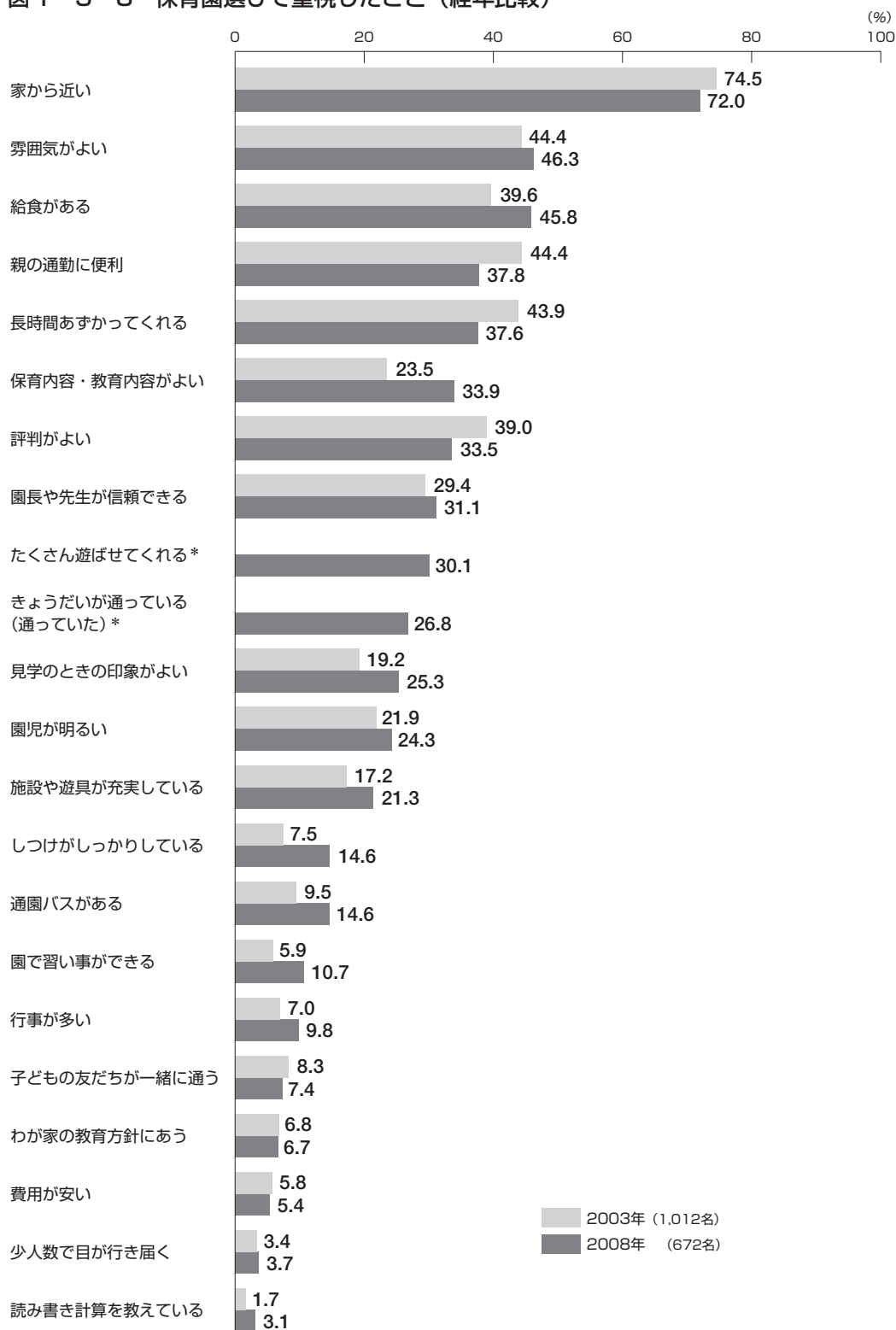


注 1) 複数回答。「その他」を除く 22 項目を図示した。

注 2) *は 2008 年調査で追加した項目。

注 3) 「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」の質問で、「よく考えた」「まあ考えた」と回答した人のみ分析した。

図 1-5-3 保育園選びで重視したこと（経年比較）



注1) 複数回答。「その他」を除く22項目を図示した。

注2) *は2008年調査で追加した項目。

注3) 「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」の質問で、「よく考えた」「まあ考えた」と回答した人のみ分析した。

● 幼稚園・保育園で過ごす時間は、地域によって異なる

「お子様は、1日のうちどれくらいの時間を幼稚園・保育園で過ごしますか。平日の平均時間をお教えてください」とたずねたところ、幼稚園で過ごす時間は「5時間くらい」が68.3%、保育園で過ごす時間は「8時間くらい」が32.5%でもっとも多かった。03年調査と比較すると、この傾向に変化はなかった(図1-5-4、5)。

地域別でみると、首都圏では(図1-5-6)、幼稚園で過ごす時間は「5時間くらい」が68.3%と際立って多かった。一方、保育園で過ごす時間は、「7時間くらい」から「9時間くらい」に7割強が分布しているものの「11時間くらい」でも7.8%となっていた。図

1-5-6のように、幼稚園・保育園で過ごす時間の重なりはほぼみられなかった。

地方市部と地方郡部(図1-5-7、8)では、幼稚園で過ごす時間は、「5時間くらい」から「6時間くらい」に分布した。保育園で過ごす時間は、「7時間くらい」から「9時間くらい」に分布しており、幼稚園と保育園で過ごす時間に、重なりが少しみられた。

首都圏では、保育園で過ごす時間が地方市部・地方郡部に比べて長く、幼稚園と保育園では、あずける時間の差が大きかった。一方、地方市部・地方郡部では、幼稚園で過ごす時間が首都圏に比べて長く、幼稚園と保育園で過ごす時間が首都圏ほど分かれていない様子うかがえた。

図1-5-4 幼稚園で過ごす時間(経年比較)

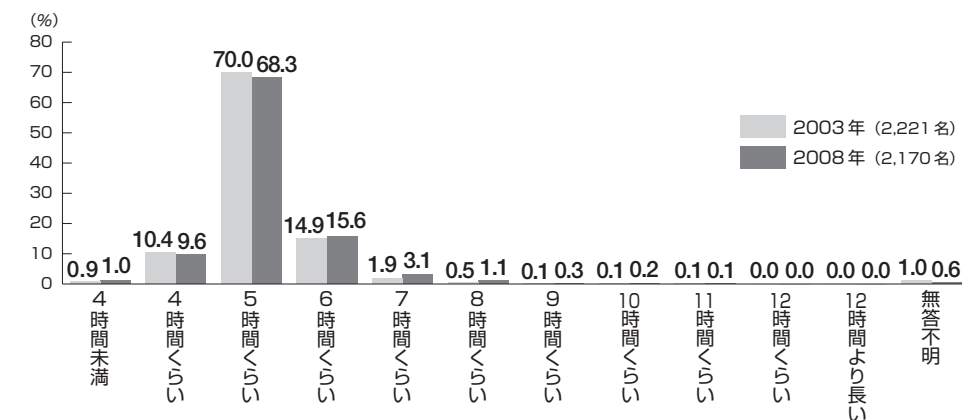


図1-5-5 保育園で過ごす時間(経年比較)

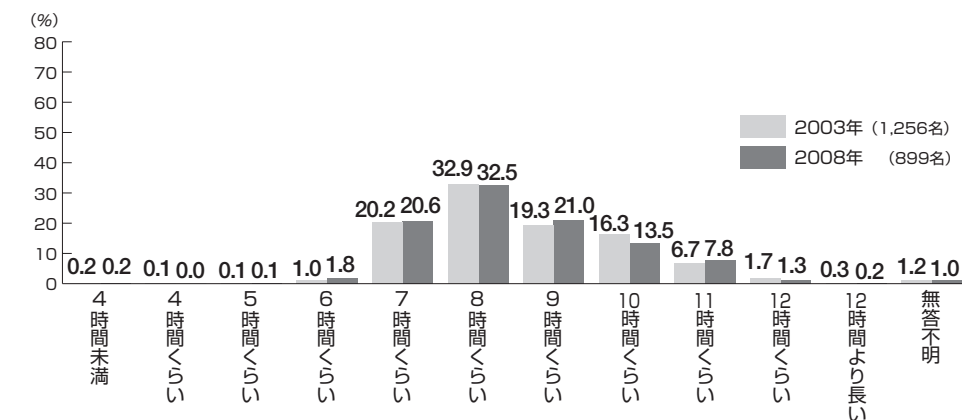


図1-5-6 幼稚園・保育園で過ごす時間（首都圏）

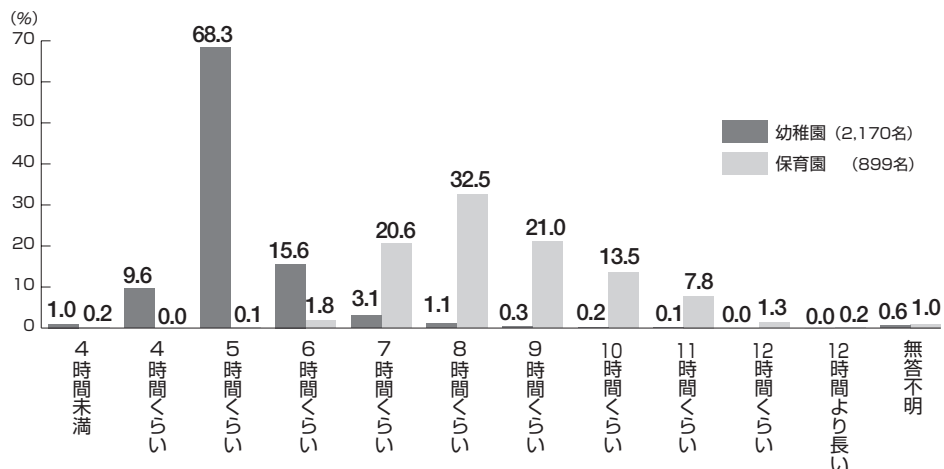


図1-5-7 幼稚園・保育園で過ごす時間（地方市部）

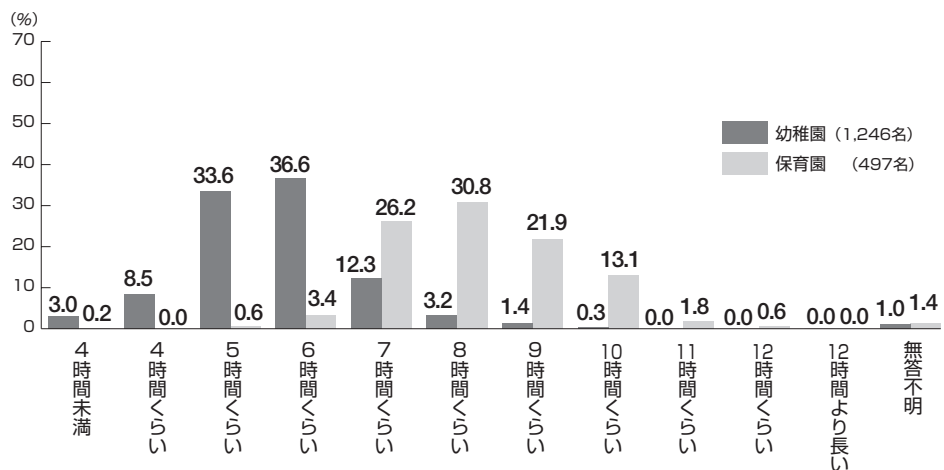
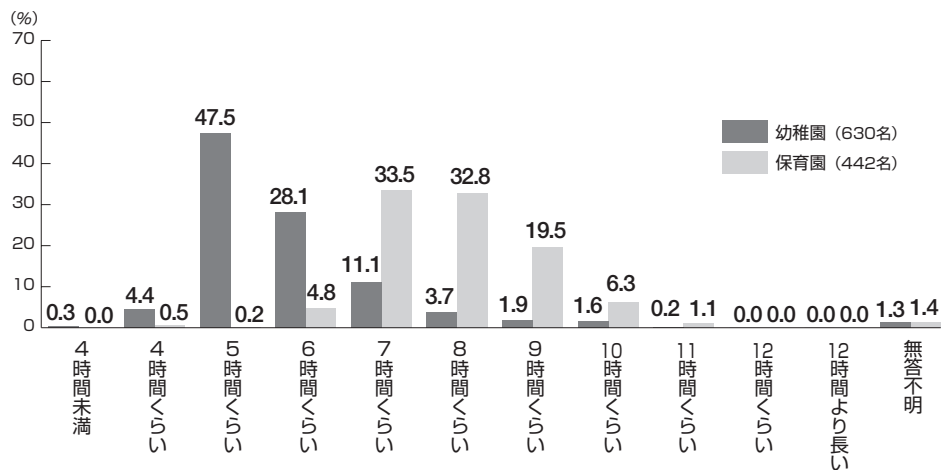


図1-5-8 幼稚園・保育園で過ごす時間（地方郡部）



幼稚園・保育園に対するしつけや教育への期待

幼稚園・保育園ともに母親たちは「ルールやきまりを守ること」「友だちと仲良くすること」など、集団生活の中で社会性をはぐくむことを期待していた。また、幼稚園・保育園で数値に違いがみられる項目もあった。

● 幼稚園・保育園ともに期待されている「社会性」

母親たちは園でのしつけや教育にどのような期待をもっているのだろうか。幼稚園・保育園に対して期待すること12項目をあげ、それぞれについて「とても期待する」から「まったく期待しない」までの4段階で答えてもらった。その中から「とても期待する」の割合をまとめたのが図1-5-9である。幼稚園と保育園で多少数値に差がみられるが、全体の回答率の高い順にみると「ルールやきまりを守ること」(67.0%)、「友だちと仲良くすること」(66.0%)、「人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること」(63.7%)、「思いやりや道徳心を育てること」(61.6%)、「あいさつやお礼をきちんと言うこと」(59.8%)など、社会性に関連する項目が上位を占めた。

本調査の回答者は3歳以上の子どもを育てているので、この結果は発達の面からみても理にかなっている。園に対して、他の子どもたちと共に育ちあう場であることを期待するのは今も昔も変わらない普遍的なことといえるが、少子化によって、近隣に遊び相手となる同年齢の子どもが減ってきていることを考えると、園に対するこのような期待はますます重みをもってきているのではないだろうか。

● 幼稚園・保育園で差がみられる項目

幼稚園と保育園を比較すると、保育園を利用している母親の回答率が高いものがいくつかあった。「ぎょうぎよく食事をする事」(9.0ポイント)、「規則正しい生活リズムを身

につけること」(6.2ポイント)、「文字や数を教えること」(5.9ポイント)などである。これは、保護者がしつけを園にゆだねているというよりも、食事や昼寝などがある保育園生活の中で、このようなしつけもしてほしいという願いだろう。また、「文字や数を教えること」は、幼稚園の教育内容を意識してのことだろうか。

これに対して幼稚園で高かった項目は「思いやりや道徳心を育てること」(10.5ポイント)、「子どもの興味・関心を伸ばすこと」(8.2ポイント)、「人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること」(6.4ポイント)だった。幼稚園には、子どもの社会性を育てることがより期待されているようだ。

● 園への満足度

今回の調査では、「園の取り組みや指導にどのくらい満足していますか」という質問に対し、「とても満足している」「まあ満足している」「あまり満足していない」「ぜんぜん満足していない」の4段階で回答してもらい、さらにその理由をフリーアンサーで答えてもらった。首都圏全体では「とても満足している」は26.2%、「まあ満足している」は64.2%、あわせると90.4%が「満足している」と答えていた(図1-5-10)。

満足している理由の代表的なものには、「子どもが毎日楽しそうに通っている」「遊びの中からいろいろなことを学んでいる」「入園してから、日々子どもが成長していくのが感じられる」「先生が子どもをよくみてる」(以上、幼稚園)、「先生方が親身、熱心」「基

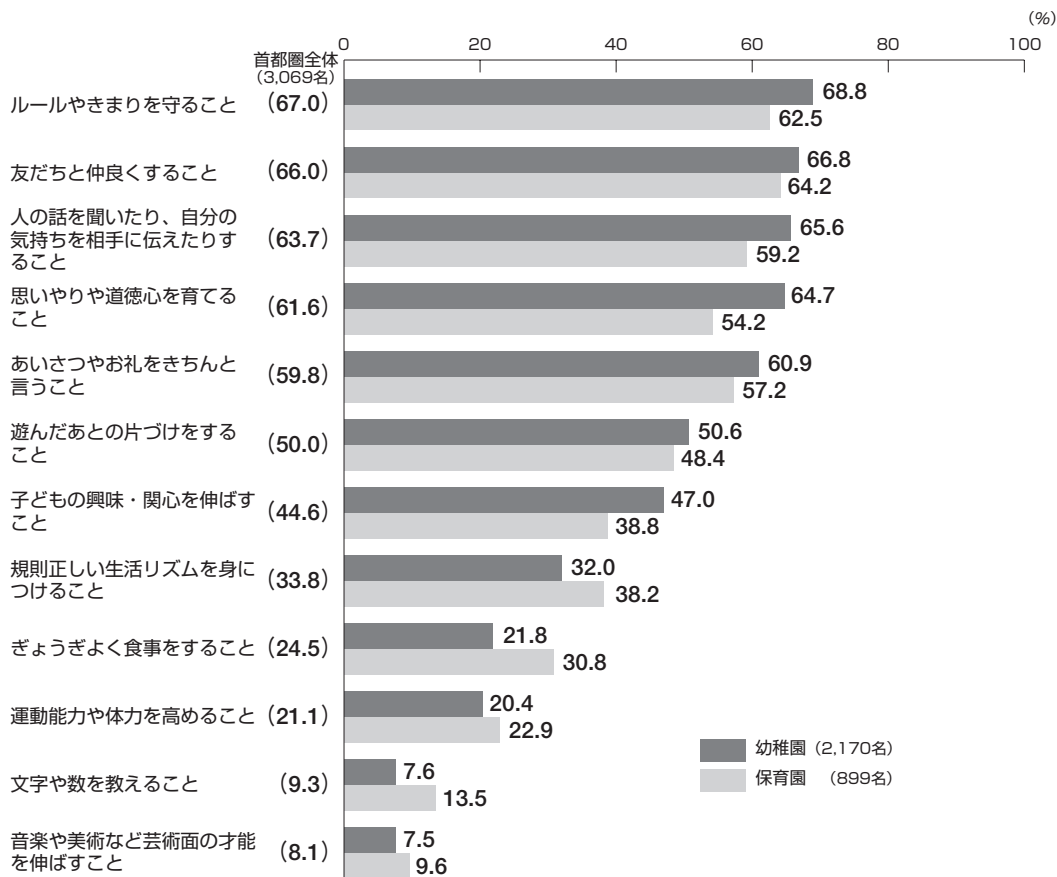
本的な生活のしつけをきちんとしてくれる」「子どもが楽しそうに通っている」「行事を通していろいろなことを体験させてくれる」（以上、保育園）などがあった。

一方で「あまり満足していない」は7.8%、「ぜんぜん満足していない」も0.9%あった。

満足していない具体的な理由としては、「放任しているように見える」「先生によって

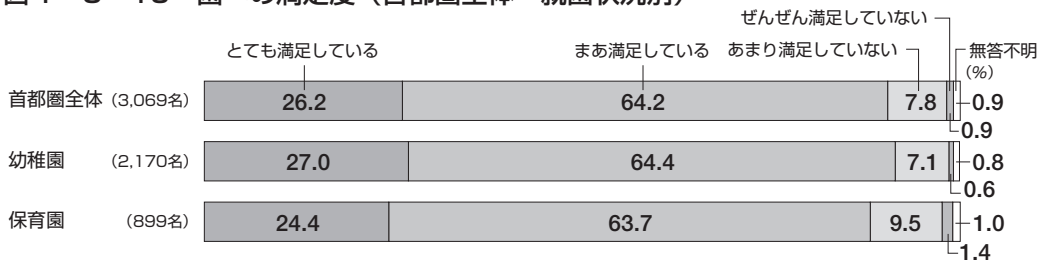
ばらつきがある」「園でやっていることがよくわからない」（以上、幼稚園）、「先生の人数が少なく、目が行き届いていない」「親とのコミュニケーションが足りない」（以上、保育園）などがあった。不満足の原因として、保育の質や保護者とのコミュニケーションの不足があげられていた。

図 1-5-9 園に対する、しつけ教育の期待（首都圏全体・就園状況別）



注)「とても期待する」の%。

図 1-5-10 園への満足度（首都圏全体・就園状況別）



園と保護者の関係の変化

—— 分析結果からみえること ——

● 少子化対策と幼稚園・保育園の

役割の変化

2003年の第2回調査では、母親に対して幼稚園や保育園を選ぶときにどんなことを重視したかをたずねている。今回の第3回調査では、それに加え、園へのしつけや教育期待にどのようなものがあるかをたずね、園への満足度もたずねた。

園に関する質問を増やした背景には、少子化が進む中、園と母親の関係が変わってきていることが予測されたためである。

本調査の第1回目を実施した1997年は、いわゆる「エンゼルプラン」が施行された2年後で、当時の少子化対策は働く母親の支援を主眼とし、保育所の拡充に力が注がれていた。その後、10年余りがたち、「新エンゼルプラン」(2000年～2004年)、「子ども・子育て応援プラン」(2005年～2009年)へと展開する中で、少子化対策は働く母親だけでなく、専業主婦にも対象を拡大し、少なくなる子どもの育ちを地域の中でどのように支えるか、という方向に変化してきた。幼稚園・保育園に対しても、少子化対策の一環として地域への貢献が求められ、園庭開放や在園児以外の子どもの一時預かり(保育園)や親子登園(幼稚園)が行われるようになってきている。平成21年度から施行される改訂幼稚園教育要領と改定保育所保育指針の中にも、園の役割として、地域の子育てを支援することが掲げられ、園は地域の子育て支援の拠点としての役割を担うようになってきている。

● 内容を重視するようになった母親たち

一方で、少子化の進行により、幼稚園では廃園が増え、残った園——とくに私立幼稚園は新たな園児の獲得のためにさまざまな対策を打っている。その中には、2歳児の親子登園を受け入れたり、園庭開放を通し、早くか

ら地域の親子と接点をもつ園も出てきている。

今回の調査では、母親たちは5年前よりも園を選ぶ際に「しつけがしっかりしている」「保育内容・教育内容がよい」「見学のときの印象がよい」「園長や先生が信頼できる」といった点を重視するようになってきていることがわかった。保育や教育内容に対する関心が高まってきていることもあるが、園と地域の親子が入園前から交流する機会が増え、保護者は園の中身をよくみたくうえで子どもを入園させていることが背景にあるのではないだろうか。

● 母親は社会性を育むことを期待

園の側からみると、晩婚化・晩産化により、保護者の年齢層も上がる傾向にある。本調査でも、03年調査の母親の平均年齢は34.6歳だったが、今回は35.1歳になっていた。母親の年齢層は20代から40代に広がり、保育者は幅広い価値観を受け入れることが求められるようになってきている。また、厳しいクレームをぶつける保護者が話題になることもある。こうした保護者に対応し、課題を解決していくには大変なエネルギーが必要とされる。しかし、今回の調査結果では、首都圏の母親たちの園への満足度は「とても満足している」が26.2%、「まあ満足している」が64.2%、あわせると90.4%となっていた。

園への期待としては、社会性を育むことを上位に選ぶ母親が多かった。これは、当然の結果かもしれないが、少子化が進む中、同年齢の子ども同士が育ちあう場としての幼稚園・保育園への期待が大きくなっていることもあるだろう。また、園の先生たちとの交流の中で子育ての知恵を学んでいる母親も増えているのではないだろうか。しつけや教育の情報源を質問した際に、「園の先生」をあげる母親が増えていたのも(第2章p.43 参照)このようなことが関係していると思われる。

保育園の先生方が保護者に期待するしつけや教育について

第2節では、母親が園に期待することについてまとめたが、逆に園の先生は保護者にどのような「しつけや教育」を期待しているのだろうか。

ベネッセ次世代育成研究所で実施した保育園の園長（施設長）を対象とした調査結果※では、3歳以上の子どもをもつ保護者に対する期待として、「規則正しい生活リズムを身につけること」「あいさつやお礼をきちんと言うこと」「人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること」「ルールやきまりを守ること」が上位にあげられていた（表1-5-1）。

母親が保育園に期待することと並べてみると、上位第2位から第5位までは、多少順番が違うものの、双方が期待していることがほぼ同じことがわかる。この項目は園で、この項目は家庭で、という役割分担があるというよりも、園と保護者は目標を共有しながら、それぞれの場で子どもを育てているといえるのではないだろうか。

しかし、「規則正しい生活リズムを身につけること」は家庭生活がダイレクトに反映され、子どもたちの園生活への影響も大きいため、保育園が保護者に期待することの第1位になっている。朝、ぎりぎりの時間に駆け込む親子や朝食を食べずに登園する子もいるという話を聞く。もちろん、一部の親子なのだろうが、保育者の目には大きな課題と映っているようだ。

※ 「幼児教育・保育についての基本調査（保育所編）」（2008年調査実施、全国3,018の認可保育所が回答）

表1-5-1 保育園と保護者が互いに期待すること

母親が保育園に期待			保育園が保護者に期待		
		(%)			(%)
1位	友だちと仲良くすること	64.2	1位	規則正しい生活リズムを身につけること	59.9
2位	ルールやきまりを守ること	62.5	2位	あいさつやお礼をきちんと言うこと	53.3
3位	人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること	59.2	3位	人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること	50.3
4位	あいさつやお礼をきちんと言うこと	57.2	4位	ルールやきまりを守ること	47.9
5位	思いやりや道徳心を育てること	54.2	5位	思いやりや道徳心を育てること	47.8
6位	遊んだあとの片づけをすること	48.4	6位	子どもの興味・関心を伸ばすこと	36.7
7位	子どもの興味・関心を伸ばすこと	38.8	7位	友だちと仲良くすること	34.0
8位	規則正しい生活リズムを身につけること	38.2	8位	遊んだあとの片づけをすること	29.3
9位	ぎょうぎよく食事をすること	30.8	9位	ぎょうぎよく食事をすること	25.4
10位	運動能力や体力を高めること	22.9	10位	運動能力や体力を高めること	9.3
11位	文字や数を教えること	13.5	11位	音楽や美術など芸術面の才能を伸ばすこと	2.6
12位	音楽や美術など芸術面の才能を伸ばすこと	9.6	12位	文字や数を教えること	1.6

注1) 本調査に回答した保育園に通う子どもをもつ母親899名と、ベネッセ次世代育成研究所で2008年に実施した「幼児教育・保育についての基本調査（保育所編）」に協力した3,018の認可保育所を母数に算出した。

注2) 「とても期待する」の%。